



第 25 回

インターゲノミクス セミナー

神戸大学大学院・農学研究科
インターゲノミクス研究会 主催
(若手研究者育成支援経費)

日時：10月25日（金）15時10分より 場所：農学部 C101

「植物生育圏における微生物の多様な生存戦略」

15:10 イントロダクション

15:15 **土壌の特異な機能・・・なぜ万物を分解し万物を化育できるのか**
篠原 信 先生（野菜茶業研究所 安濃本所）

要旨内容：土壌は万物を分解して無機養分とし、植物に提供することで万物を化育する。こんな土壌は地球にしかない。有機物を分解し肥料に変える力を備える土塊を「土壌」という。この力は土壌微生物が授けるが、土壌微生物を土壌以外の媒体で活動させる技術はこれまで存在しなかった。並行複式無機化法はそれを初めて可能にした技術である。これによりウレタンやガラスなどの人工媒体を「土壌化」することが可能である。土壌鋳物というノイズを除去できるようになったことで、農学史上最大のブラックボックス「土壌」を解明する手がかりが得られた。並行複式無機化法と有機質肥料活用型養液栽培が今後、どのような学問的可能性を秘めているのか、紹介する。

16:15 **炭疽病菌の植物感染戦略とエフェクター**
高野 義孝 先生（京都大学大学院 農学研究科）

要旨内容：植物を病気にする糸状菌（いわゆるカビ）の多くは、植物表層に存在するクチクラ層などの物理的バリアを自ら突破することで植物内へと侵入・蔓延して感染を成立させる。しかし、その感染成立は自身が適応した宿主に限定され、非宿主上においては、物理的バリアを突破できても、植物が誘導する免疫反応によって感染は完全に阻止される。この感染の成否には植物免疫の抑制能などを有する分泌タンパク質群が関与しており、それらは「エフェクター」と呼ばれる。私達は、植物病原糸状菌である炭疽病菌のエフェクターに焦点を当て研究している。本セミナーでは、炭疽病菌エフェクターの植物免疫抑制能およびエフェクターが局在する植物・病原菌間のインターフェースを主なトピックとして、その研究を紹介したい。

17:15～ 総合討論

世話人：池田健一・中馬いづみ

お問い合わせ 池田 健一（農学研究科 生命機能科学専攻 細胞機能構造学研究室）

TEL: 078-803-6487 E-mail: ikeken@phoenix.kobe-u.ac.jp